

百萬塔データベース

平城宮跡発掘調査部

考古第一調査室は、昭和57年より史料調査室とともに法隆寺所蔵百萬塔の調査を継続している。昨年度から、塔身部のデータをIBM 5550に入力しており、3,000基分の入力終了した。今回は塔身部の入力項目について紹介する(下図)。

百萬塔は、恵美押勝の乱(天平宝字八年・764)を契機に作られた木製の三重小塔で、乱から5年半後の宝亀元年(770)に百萬基が完成した。塔は横軸ロクロを使用して塔身部と相輪部を別々に作り、組合せたものである。塔身部底面にはロクロの爪跡があり、この底面と第三層笠上面には製作に係わった工人名・製作年月日・工房名の墨書銘がある。

入力項目は、百萬塔塔身部の製作技術・生産体制の復原およびデータの管理に必要な属性を39項目に整理したものである。計測値を扱う計量的項目と塔身部各部の特徴を扱う非計量的項目とに大別すると、各項目に用いるバイト数をできるだけ減らすために、非計量的項目の多くを記号で示し、計量的項目は将来の数値の処理に備えて生の数値を用いた。計量的項目(寸法)は塔身部の形態・法量を把握するための計測値15項目(単位mm)で示す。非計量的項目のうち墨書人名・年号以外は、記号化した選択肢の中から該当するものを入力する。大半は1文字の記号(アルファベットか数字)を用いるが、銘文位置と接合法で、銘文や接合が複数個所にみられる場合には、記号を組合せた(SK, 13など)。また、ロクロの爪跡は、基部底面を基盤目状の9象限に分割し、各象限内のロクロ爪の有無・爪の向きをアルファベットで示す。例えば箱形の|三|は2B 4A 5A 6A 8Bとなる。爪の配置型式は100種を超える。墨書人名は漢字(積文)で入力し、読みは片仮名で示し、姓/名とする。年号は積文と西暦で示し、西暦は年/月/日とした。この場合、元号「雲」を冠するものと、冠しないものとがあり、前者は神護景雲年間(767~770)、後者は天平神護年間(765~767)と解釈した。

以上のデータ処理で目指していることは、製品個々の特徴から製作工人を特定することである。これが可能となれば、墨書データと突き合わせて百萬塔製作工房の組織と規模を復原できるし、年間・月間の製作数の変動、工人の勤務形態、ロクロの占有形態や耐用期間、一日の製作数など工房運営の実態にまで迫れるであろう。現在、相輪部についても同じ方法で、入力項目の設定作業に取りかかっている。(岩永省三)

所蔵者	BHR	塔番号	1516
写真種類		寺仕分	F
図面存否		指定在否	
銘文位置	S		
左右工房	R		
墨書人名	道守/葛万呂	(寸法)	
仮名ヨミ	チヨ/カ*マ		
年号(西暦)	768/04 /27	14.(A)	3.3
年号(積文)	雲二四升七	15.(B)	6.4
刻印	3	16.(C)	9.55
針書存否	N	17.(D)	12.75
ロクロ爪	Y	18.(E)	13.2
爪打ち直し	N	19.(F)	8.48
ロクロ型式	2B4A5AGD8B	20.(G)	2.18X2.21
底面加工	R	21.(H)	7.72X7.64A
接合法	0	22.(I)	8.56X8.33
補修存否	Y	23.(J)	9.32X9.17
経巻孔	2	24.(K)	9.65X9.55
樹種		25.(L)	10.56X10.40
木取り	H	26.(M)	3.44
彩色	N	27.(N)	3.93
釘(字保)存否	N	28.(O)	4.53

コンピューター入力の一例